

相 双 「食」と「ふるさと」 新生運動ニュース

No.25 令和2年2月
福島県相双農林事務所



夏の放牧



片平ジャージー自然牧場(相馬市)

台風第19号等で被害を受けた施設の災害査定結果について

令和元年10月11日から26日までの間、台風19号等の暴風雨及び豪雨により被害を受けた、農地・農業用施設並びに林道施設について、12月2日～令和2年1月24日にかけて7週にわたり災害査定が実施され、査定決定額は農地・農業用施設が約30億円、林道施設が約10億円となりました。

12月からは、農村整備部に秋田県、新潟県並びに森林林業部に京都府、宮崎県、石川県から応援職員を派遣していただき、現在も査定後のとりまとめ業務など、力強い応援をいただいております。

当所としましては、被災箇所の一日も早い復旧に向け、関係市町村に対し、必要な支援を行ってまいります。

【農地・農業用施設】

市町村名	箇所数 (ヶ所)	決定額 (千円)	工種	備考
相馬市	91	870,655	田、畑、農道、水路、揚水機、頭首工、生活関連、ため池、橋梁	
南相馬市	158	873,071	田、畑、農道、水路、揚水機、頭首工、ため池、橋梁	
川内村	111	695,532	田、畑、農道、水路、生活関連、橋梁	
浪江町	14	86,506	田、畑、農道、水路、生活関連	
葛尾村	17	45,581	田、畑、農道、水路、	
新地町	7	36,407	田、水路、頭首工	
飯舘村	14	125,725	田、水路、生活関連	
県営(相馬市)	6	330,037	田、水路、揚水機	
相双管内 合計	418	3,063,514		



【林道施設】

市町村名	復旧路線	復旧箇所数 (ヶ所)	事業費 (千円)	備考
相馬市	11	23	222,521	
南相馬市	17	45	480,193	
広野町	1	3	11,125	
檜葉町	1	1	17,535	
富岡町	3	7	40,177	
川内村	9	21	90,530	
大熊町	2	10	111,651	
浪江町	1	1	4,672	
葛尾村	1	1	10,669	
飯舘村	1	1	7,144	
相双管内 合計	47	113	996,217	



農地の流出・土砂堆積等の査定状況
早渡北地区（川内村）



農道橋崩落被害の説明状況
山上地区（相馬市）

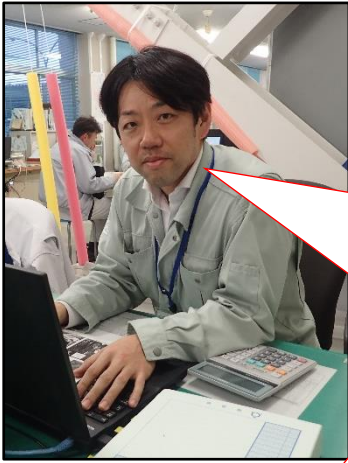


新潟県から派遣されました吉田です。
管内視察で被害状況を目の当たりにし、その規模・範囲の大きさに衝撃を受けました。
査定が終わり、今後各市町村では発注業務が忙しくなる時期かと思えます。早期の営農再開のため、微力ながらお力添えできたらと思えます。



秋田県から派遣されてきました中村です。
被災現場を視察し、被害の大きさを実感し、早急な復興が必要だと感じました。現在、被災箇所のとりのまとめ業務を行っており、福島県の復興に役立てるよう取り組んでまいります。





石川県から派遣されました垣地です。
相双農林事務所に着任の際、被害箇所数、規模の大きさについて報告を受け、復興に向けて貢献できるよう改めて覚悟を決めました。
査定後の現在は、市町村の発注設計書作成に向けた協力が主な用務で早期の復旧に向けて尽力したいと思います。



京都府から派遣されてきました寺井です。
1つの台風による査定申請箇所数がとても多く被害規模の大きさを感じました。
査定は終わりましたが、工事完成まで、まだまだ関連業務が続きます。少しでもお役に立てればと思います。



宮崎県から1月6日に派遣されました岩切です。
宮崎県から来ました私にとって、福島県は雪が降り積もり寒いというイメージでしたが、暖冬で雪が降らず残念な思いをしています。
派遣業務につきましては令和2年1月14日～24日間林道災害復旧事業の査定に携わり、災害規模及び箇所数の多さに衝撃を受けました。
令和2年3月31日（3か月間）までわずかではありますが、林道災害復旧のお役に立てるよう頑張っています。

(農村整備部・森林林業部・企画部)

双葉地方の畜産農家の営農再開が進んでいます！

震災前、双葉地方は酪農と肉用牛の生産が盛んな地域で、耕畜連携による飼料生産や堆肥の活用など、地域一体となって取り組んでいました。震災から9年が経ち、避難指示の解除が進むにつれて、ふるさとや牛への熱い想いを持った畜産農家の皆様が徐々に再開を果たしています。

楡葉町では、平成28年4月に震災以降初めて、酪農と肉用繁殖牛経営が再開し、翌年から原乳や和牛子牛の出荷が始まりました。現在、4戸（酪農1戸、肉用繁殖3戸）の畜産農家が再開を果たしています。令和元年12月には、農家、JA福島さくら、町、当所を構成員とする「楡葉町畜産クラスター協議会」が発足し、農家と関係機関が連携した、畜産振興と発展を目指す取組がスタートしました。協議会では、再開や規模拡大する畜産農家を地域一体となって支援することとしており、今後の取組が期待されます。

葛尾村では、村外の農家に預けていた肉用繁殖牛の帰村や、新たな繁殖雌牛の導入が進んだ結果、畜産農家戸数は15戸（酪農1戸、肉用繁殖14戸）となりました。飼養管理技術の向上に取り組む後継者も育っています。酪農では、平成31年1月から原乳の出荷が始まっており、こちらの生





産者は、帰村していない農家の農地を借りて飼料用トウモロコシの栽培に取り組み、村内の荒廃農地の解消に貢献しています。

双葉農業普及所では、畜産農家の営農再開と再開後の経営安定に向けた支援を行っております。畜産の再開に向けては、畜舎の整備、家畜の導入、安全な飼料の確保等の準備が必要になりますので、様々な支援制度などについて、お気軽に御相談ください。

(双葉農業普及所)

「日下石第1区農地・水・環境保全会」が優秀賞を受賞！

農業・農村の持つ自然環境や良好な景観の形成など、多面的機能の保全や向上を行う「多面的機能支払交付金」は、県内で1,399組織、相双地域では111組織が活動しています。

これらの中から、規範となる活動を行った組織を表彰する優良活動表彰で、相馬市の「日下石第1区農地・水・環境保全会」が優秀賞（福島民友新聞社賞）を受賞しました。

活動開始前は、高齢化や担い手不足により施設の保安全管理が困難となり、農道周りの雑草やゴミの不法投棄が目立ち、農村環境形成の阻害要因となっていました。しかし、組織一体となった取り組みの結果、担い手不足の受け皿づくりの機運が高まり、農事組合法人日下石ファームが設立され、更には地域住民の植栽活動によりゴミの不法投棄が減少するなど地区全体の景観維持意識が向上しました。

非農業者が多いこちらの地区において、地域住民全員で環境保全に取り組んでいることが評価され、今回の結果に繋がりました。

これからも美しい田園風景が守られる活動を支援してまいります。



田んぼでの体験学習



景観形成のための花の植栽

(農村整備部)





相馬地方トルコギキョウ振興セミナーを開催しました！

トルコギキョウは、農業者の収益の向上と新たな産地化を目指し、推進している品目で1、温暖で日照量が豊富な当地方の特色を活かし、さらなる生産拡大が期待されています。そこで、相馬地方のトルコギキョウの産地発展のため、2月7日(金)に、福島県環境放射線センターで「相馬地方トルコギキョウ振興セミナー」を開催し、トルコギキョウ生産者など約60名が参加しました。

セミナーでは、相馬地方に適した品種、苗生産技術、土壌病害対策について講演を行いました。品種について講演をいただいた住化農業資材の西村氏からは、「白・ピンク・パステルの花色は安定して需要がある。作型と自分の技術レベルに合わせて品種を使い分けてほしい。」とアドバイスがありました。県農業総合センター花き科の山口科長からは、「苗は空気・温度・光・水の条件がそろえば育つ。苗の気持ちを思いやって管理をすれば良い苗になる。」との苗生産技術の説明がありました。土壌病害の研究に携わる山形県の菅原専門員からは実際の症例を示しながら土壌病害対策の講演をいただきました。土壌病害の効果的な対策については、「連作を初めて年数が浅い相馬地方では、土壌病害を持ち込まない対策と、定期的な土壌消毒による土壌病害対策が重要。」と説明されました。講演後に行ったアンケートでは、参加者から、「苗づくり技術について再確認・再認識した。」「土壌病害の具体的な症例が見られてよかった。」などの感想が寄せられました。

今後も、相馬地方のトルコギキョウ生産拡大および産地化に向けて取り組んでまいります。



相馬地方トルコギキョウ振興セミナー



相馬地方で生産されているトルコギキョウ
(農業振興普及部)

「ふくしま県産材で東京2020大会サポート事業」 小学校児童による木製ベンチの製作

令和2年1月21日(火)から2月4日(火)にかけて、相馬市の大野小学校、南相馬市の石神第一小学校、原町第三小学校、八沢小学校及び上真野小学校の五つの小学校児童による木製ベンチの製作が行われました。

この取組は、「ふくしま県産材で東京2020大会サポート事業」の一環として、県内の小中学校児童生徒が東京オリンピック・パラリンピック関連施設に提供する木製ベンチの製作に参加する取組です。

製作内容は、木製ベンチの脚の組立の一部を行うもので、児童はドライバーを使い作業を行いま





したが、慣れない手つきの児童も多く、先生や当所職員の補助を受けながら、木製ベンチを完成させました。その後、児童全員で完成したベンチの座り心地を確かめ、記念撮影と選手へエールを送る動画撮影を行いました。



この木製ベンチは、オリンピック・パラリンピック終了後、各小中学校に戻ってくる予定で、レガシーとして児童生徒に使われていきます。

(森林林業部)

緑の文化財「三ツ森の一俵栗」の現地調査をしました！

寒さが身にしみるものの晴天に恵まれた11月下旬、大熊町及び町教育委員会、おおくまふるさと塾の方々とともに総勢9名で緑の文化財の現地調査を実施しました。

今回調査を実施した緑の文化財「三ツ森の一俵栗」は、帰還困難区域となっている大熊町西部の三ツ森山自然公園内にあります。震災前は、駐車場から徒歩約15分で到着できましたが、大震災以降、立ち入りが制限されていた歩道は、歩けないほど雑木が繁茂し、さらには、10月の台風災害により崩落している箇所がある等、迂回を余儀なくされ、到着まで30分以上かかってしまいました。

なんとか現地に着し、参加者一同で樹勢の確認や樹高・幹回りの計測を行いました。その結果、樹勢は比較的良好であったものの、枝枯れや枝折れが一部に見られ、また、幹を支える支柱の一部が腐食していたことから、保全対策が必要であることが確認されました。今後、空間放射線量率の動向や林道や歩道の補修・復旧状況をみながら保全対策を検討していきます。

避難指示区域が解除され、立ち入りが可能となる区域が拡大してきており、住民帰還が進むにつれ緑の文化財の保全対策の相談が増えることが予想されます。今後とも、関係者と協力して緑の文化財の現地調査や保全対策を検討してまいります。



「三ツ森の一俵栗」の幹回りを測定



「三ツ森の一俵栗」と参加者一同
(富岡林業指導所)





「ふくしまフェスタ」に参加しました！

当所では、広く相双地方の6次化商品のPRを行い、地域産業6次化の取組や商品の認知度を高めるため、「そうそう・6次化商品フェア」の開催や各団体が開催するイベントに参加しています。

今回は、令和元年11月29日に開催された「ふくしまフェスタ in コレド日本橋」及び令和2年1月25日から26日に開催された「ふくしまフェスタ in イオンモールいわき小名浜」に参加し、コレド日本橋では、「株式会社あぶくま川内」の川内村にある「いわなの郷」で育てたいわなを使ったアヒーショや川内村産の和栗をラム酒で煮込んだ渋皮煮を試食提供しながら、川内村の紹介を交え販売と商品のPRを行いました。イオンモールいわき小名浜では、「株式会社新妻有機農園」と「一般社団法人南相馬農地再生協議会」が出展し、有機栽培で作ったコシヒカリを100%使った日本酒「初代 ^{あひる} 鷲」や有機栽培に活躍した「あひるのソーセージ」、南相馬市産のなたねを搾った「油菜ちゃん」や油菜ちゃんを使ったマヨネーズ、ドレッシング等を販売しました。いずれの会も大盛況のうちに終わることができました。

当所では、今後も管内の6次化商品のPRに尽力してまいります。

【ふくしまフェスタ in コレド日本橋】



「いわなのアヒーショ」と「いわな贅沢ごはん」



「乾燥シイタケ」と「和栗の渋皮煮」

【ふくしまフェスタ in イオンモールいわき小名浜】



「新妻有機農園」



「南相馬農地再生協議会」

(企画部)





小泉武夫先生の出前講座を開催しました！

当所では、家庭での健全な食生活の実践を通し、地場産物の良さを改めて理解してもらい、食育と地産地消を推進するため、福島県出身で、発酵・醸造学で著名な小泉武夫東京農業大学名誉教授による出前講座～笑顔と元気を作る食事学～を南相馬市で開催しました。

小泉先生の講演の前には、相双地域で食育の推進に熱心に取り組まれている、西チイ子氏から『食育実践サポーターの活動を通して』と題し、これまでの食育に関する取組で感じたことや、畑のお肉とも称される大豆の健康効果などについてお話しをいただきました。

その後、小泉先生に『発酵食品で健康生活』をテーマに講演をいただき、日本人の食文化が変化し、肉食の増加が多方面に悪影響を及ぼしていることや、「医食同源」のもと普段から野菜や発酵食品を取り入れることで免疫を高める食事法が重要であることなどについて、分かりやすくお話をいただきました。

当日は、多くの方にご来場いただき、西氏の講話はもとより小泉先生の講演では、合間に挟むジョークなどで笑い声があふれ、すばらしい講演会となりました。



西チイ子氏の講話



小泉武夫先生の講演 (企画部)

「発見しよう！親子で学ぶ農林水産業 見学体験ツアーin 相馬・新地」を開催しました！

県では、安全な農林水産物を消費者に提供するため、米の放射性物質の全量全袋検査をはじめ、モニタリング検査を行い、広く安全性を示しています。

生産者の皆さんとの交流や収穫体験などを通して、相馬地方の農林水産物に対する安心を深めてもらうことを目的に、親子を対象としたツアーを令和2年2月16日（日）に開催しました。

ツアーには、小学生と保護者14組32名が参加されましたが、新地町のきのこ栽培農家では、「原発事故後は原木の仕入れが難しく、今年は岩手県から仕入れをした。」などの説明があり、参加者は原木シイタケの貴重さを学んでいました。

次に、相馬市の鶴ノ尾岬を訪れ、海岸防災林の復旧状況を見学しました。その後、同市の和田観光苺組合に移動し、ハウス栽培によるいちごの収穫を体験しました。収穫に先立ち、和田観光苺組合長から、「震災で約6割の施設が水没し、原発事故の風評被害も深刻だったが、いちご農家が観光の復活を目指して集まり、平成24年度には活動を再開した。」などの説明があり、参加者は震災後の苦勞について学んでいました。

午後からは同市の大野公民館において、収穫したいちごを使いスイーツづくりを行いました。参加者は地元産のいちごのおいしさを改めて感じているようでした。





最後に、参加者からは、「シイタケ農家さんを見学して、震災後の原木の仕入れに苦労していることを知り貴重な原木シイタケだと感じた。」「生産者の方と直に話しができる良い機会であった。」「子供だけでなく親も楽しみながら復興について考えさせられた。農作物を安心して口にできる。」などの感想があり、貴重な体験であったことがうかがえました。



原木しいたけの植菌体験



いちごの収穫体験

※双葉地方においても親子で学ぶ農林水産業見学体験ツアーを企画しましたが、台風19号の影響により中止となりました。 (企画部)

広野町の新しい特産品バナナ「^{きれい}綺麗」を紹介します

令和元年8月19日に広野町で栽培されている国産バナナの名前が「朝陽に輝く水平線がとても綺麗なみかんの丘のある町のバナナ」(略称：綺麗)に決定しました。バナナは日本でもごく限られた地域でのみ栽培されており、東北では初めての試みでした。平成30年9月に150株の苗が植えられ、令和元年8月には初めての収穫を迎えました。「凍結解凍覚醒法」という技術により、苗に耐寒性をつけ、疑似体験による氷河期を乗り越えたバナナは震災を乗り越える福島の姿に重なります。「綺麗」は、台湾バナナ系統である「グロスミッチェル種」をもとに作り出したオリジナル品種であり、糖度が高めでクリーミーかつ濃厚な味わいが特徴です。また、各種ポリフェノールや必須アミノ酸、エネルギー代謝に欠かせないビタミンB群を豊富に含み、特に皮に栄養が含まれているため、そのまま食べることをおすすめいたします。収穫された「綺麗」は広野町の二ツ沼総合公園等で販売されており、今後は首都圏や県外向け贈答品等さまざまな展開を視野に入れております。お立ち寄りの際は、是非ご賞味ください。



※「綺麗」のパッケージ等は、「ふくしまプライド。」農林水産物ブランド力向上支援事業を活用しております。 (企画部)



相双農林事務所からのお知らせ

相双地方では、福島第一原子力発電所事故の影響で農林水産物の摂取・出荷制限指示が出されています。

摂取や出荷に当たっては、摂取・出荷制限指示の有無の確認をお願いいたします。

摂取・出荷制限指示の有無については、以下のURLから確認できます。

『摂取や出荷等を差し控えるよう要請している福島県産の食品について』

※ふくしま復興ステーションHP内：<https://www.new-fukushima.jp/storage/pdf/subject.pdf>

農作物の出荷制限についてのお問い合わせは下記までご連絡ください。

～野菜類、果実類～

・相馬地方
福島県相双農林事務所 農業振興普及部
経営支援課 電話 0244-26-1151

・双葉地方
福島県相双農林事務所 双葉農業普及所
経営支援課 電話 0240-23-6474

～山菜類、きのこ類～

・相馬地方
福島県相双農林事務所 森林林業部
林業課 電話 0244-26-4305

・双葉地方
福島県相双農林事務所 富岡林業指導所
電話 0240-23-6084

表紙の写真について

片平ジャージー自然牧場では、ジャージー牛を放牧しています。雪の季節には、牛は牛舎の中で暖かくしてすごしています。そのジャージー牛から搾った乳を100%使用したアイスクリームやソフトクリームが、「まきばのジャージー」で販売されています。ジャージー牛乳ならではの濃厚な味わいが特徴です。次のお店に是非お立ち寄りの上、そのおいしさをご賞味ください。

まきばのジャージー

伊達市霊山町石田川面1-1

まきばのジャージー道の駅伊達の郷りょうぜん店

伊達市霊山町下小国字桜町3-1



ジャージー牛乳を100%使用したアイスクリームとソフトクリーム



福島県相双農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
Tel : 0244-26-1153 Fax : 0244-26-1181
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36260a/>
E-mail kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp